

令和元年度 事務事業総点検シート(1)  
[平成30年度事務事業]

特別会計		事務事業分類		簡易点検	
事務事業名		地域リハビリテーション活動支援事業		A 一般事務事業	
担当部署名		健康福祉 局 長寿社会 部 地域包括ケア推進 課		シート番号	
		評価責任者(課長名)		11-266	
				阿加井	

Ⅰ. 基本情報

基本情報	1	堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け	政策	1	暮らしの確かな安全・安心を確保します	後期実施計画の位置付け
			施策	2	地域全体で支える福祉の仕組みづくり	無
	2	事業開始年度	平成 29 年度		終了(予定)年度	— 年度
	3	根拠法令等(法令、条例、規則、要綱等)	介護保険法			
	4	関連計画	堺市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(平成30(2018)~32(2020)年度)			
5	事業実施の経緯	平成28年度国のモデル事業である「介護予防活動普及展開事業」の一環として実施する。28年度は、大阪府とモデル市である羽曳野市、泉南市と共同で6回の研修会を実施。また堺市独自で2月に5回モデル会議を実施。平成29年7月から本格実施。				

Ⅱ. 事業概要

事業概要	6	事業の実施主体(誰が実施しているのか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 本庁 <input type="checkbox"/> 各区 <input type="checkbox"/> 出先機関 ( ) <input type="checkbox"/> 市外郭団体 <input type="checkbox"/> 地域団体・市民 <input type="checkbox"/> 民間企業・NPO <input type="checkbox"/> その他 ( )			
	7	事業の対象(誰を、何を対象としているのか。)	新規に要支援認定を受けた方で介護予防・日常生活支援総合事業のサービスを利用された方。			
	8	事業の目的(どのような状況にしたいのか。)	介護保険の基本理念である「要介護状態等の軽減又は悪化の防止に資する」に立ち返り、多職種協働でケアマネジメントを検討することで、高齢者のQOL(生活の質)の向上とケアマネジメントのさらなる質の向上をめざす。			
	9	事業内容(スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど)	(実施方法) ・開催回数 月6回、1回あたり4件程度。 ・参加者 司会:市職員、基幹型包括支援センター 事例提供者:居宅介護支援事業所・地域包括支援センター アドバイザー:理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、歯科衛生士 ・内容:プランナーによるケース概要説明の後、アドバイザーによる質問・提案を経て、今後の支援方針のまとめを行う。			
10	直接実施以外の主な支出先	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他 ( )				

Ⅲ. 投入量

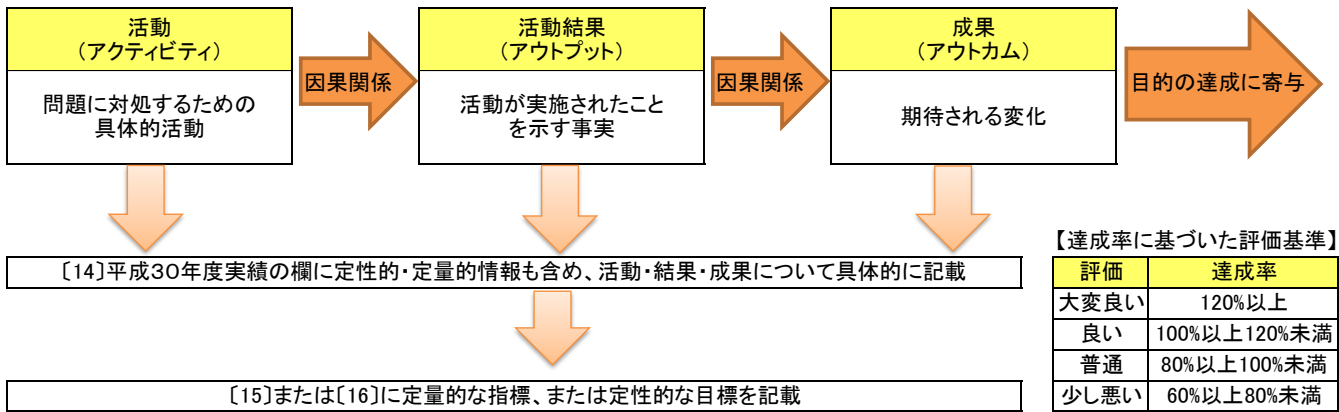
項目	単位	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R1年度予算
事業費 (a)	千円	0	1,855	2,771	3,385
11 主な事業費内訳	アドバイザー出務謝礼金	千円		1,793	3,214
	その他	千円		62	171
		千円			
		千円			
		千円			
財源内訳	国・府支出金	千円	695	1,039	1,269
	受益者負担金(使用料、手数料等)	千円			
	市債	千円			
	その他( )	千円	927	1,385	1,693
一般財源	千円	233	347	423	
12 人件費 (b)	千円	0	8,200	0	0
13 総コスト(c)=(a)+(b)	千円	0	10,055	2,771	3,385

## 令和元年度 事務事業総点検シート(2)

事務事業名	地域リハビリテーション活動支援事業	シート番号	11-266
-------	-------------------	-------	--------

### Ⅳ. 評価(測定・分析)

#### ロジックモデルの考え方



#### 事業の活動内容や成果

平成30年度実績									
活動実績と成果	14	<p>新規申請の要支援者を対象に介護予防ケアマネジメント検討会議を開催した。本会議は、市職員、基幹型包括主任ケアマネジャーが司会者となりケアマネジャー、訪問介護・通所介護事業所がケアプランを提示し、アドバイザーとしてリハビリ専門職、管理栄養士、歯科衛生士、薬剤師が各専門職の観点からアドバイスをすることで高齢者の介護保険からの自立を促し、またケアマネジャーのケアマネジメント能力の向上を目指すものである。</p> <p>平成30年度10月より薬剤師が加わったことで、服薬管理や副作用における注意点など服薬情報が有効に活かせるようになり、より充実した会議となっている。</p> <p>平成30年度は、69回開催し、233件のケアプランを検討した。</p>							
		15	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
			実施件数	件	目標値		300	288	288
					実績値		231	233	
					達成率		77%	81%	
		評価			少し悪い	普通			
		算出方法・設定根拠など		実際に会議で取り上げたケース件数					
		16	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
					目標値				
					実績値				
達成率									
評価									
算出方法・設定根拠など									

#### 業績の分析

17	<p style="text-align: center;">目標を達成できた、または達成できなかった要因についての分析 (その他、関連情報に基づいた分析)</p>
	<p>・対象ケースが、選択時の状況と変化(区分変更や入院等)しているケースや、事業者の都合(研修や現場が人手不足等)の理由で候補に挙げられ、対象外となるケースが時折みられたため目標数に達しなかった。</p> <p>・担当ケアマネジャーに3ヵ月後のアンケートを実施しているが、会議でのアドバイスが活かしているケースも多く見られるほか、運動、口腔、栄養等ケアマネジャーへの気づきの場にもなっている。</p>

#### 【分析のチェックポイント】

- 事業の達成度はどうでしたか。
- 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありませんでしたか。
- 資源投入は適切でしたか。
- 事前想定できない外的要因の影響はありませんでしたか。
- 事業の有効性は高いですか。低いですか。